

ごあいさつ

本田技研工業株式会社 専務執行役員
安全運転普及本部部長

峯川 尚



日頃からHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。お陰様で本年も様々な分野において安全運転普及活動を展開することができました。この場をお借りし、改めまして御礼を申し上げます。

平成24年は、交通事故発生から24時間以内に亡くなられた方は4,411人と12年連続で減少するとともに、負傷者数、交通事故発生件数も8年連続で減少しました。これは交通安全に関わる官・民はもとより、交通社会に参加する一人ひとりの努力の成果であり大変喜ばしいことと思います。しかしながら、交通事故死傷者数は約83万人と依然厳しい状況は続いており、官・民が連携した更なる交通安全対策が必要だと考えています。

Hondaは商品やサービスを通し、「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」の実現をめざし、安全の取組みを進めています。これまでクルマやバイクに乗っている人のみならず、歩行者、自転車利用者など交通社会に参加するすべての交通参加者に向けた展開を行ってまいりましたが、技術の進化や法規制といった世の中の変化に合わせて今年、「事故ゼロのモビリティ社会」の実現をめざし、あらためてグローバル安全スローガン「Safety for Everyone」を制定しました。この想いを具現化するため、「ヒト(安全教育)」「テクノロジー(安全技術)」「コミュニケーション(安全情報)」を3本柱にそれぞれを進化発展させるとともに、相互に連携することで新たな価値の創造をめざしています。

「テクノロジー」では、予防安全の領域の開発・市販化を本格化させています。10年前CMBS (Collision Mitigation Brake System) として世界で初めて市販車に搭載した「追突軽減ブレーキ」をさらに進化させ、「ぶつからないクルマ」をより多くのドライバーへ」の考えのもと、事故回避支援システム「シティブレーキアクティブシステム」の搭載拡大や、ITS世界会議で公開しました。自律走行技術や他の交通参加者との通信技術による「協調型自動運転技術」など新しい安全運転支

援技術の研究も進めてまいります。

「コミュニケーション」では、事故情報や急ブレーキ多発地点、生活者の皆様が持っている情報を「見える化」し、安全な街づくりに貢献するためのプラットフォームとして「SAFETY MAP」を一般公開しました。様々な方にご利用頂き事故防止の一助になればと考えています。また、スマートフォンやインターナビを通じて、急減速が多発している信号機のない交差点に近づくドライバーに注意喚起し、安全確認を促す「安全運転コーチング」など安全情報を活用した展開もスタートさせました。

「ヒト」へは、「人から人への手渡しの安全」と「危険を安全に体験する参加体験型の実践教育」という、安全運転普及本部発足当時から基本の考え方に基づき展開してまいりました。昨今、より複雑化している混合交通社会において、子どもから高齢者までそれぞれの年代に応じた交通安全啓発や教育が大切と認識し、地域社会と一体となって活動を行ってまいりました。その結果、全国にその活動の輪が広がり、各地域の指導者の方々が主体となり定着しています。

また、昨年度より高校生を対象に「自らの安全は自らが守る。自らの学校の安全は自分たちで守る」という意識向上を図り、高校と生徒が主体となった自主活動へ発展させることを目標に、新たな自転車・原付運転者教育などの取り組みも全国へと拡大いたしました。更に、福祉関連施設や福祉関連団体協力のもと、身体に障がいをお持ちの方の移動を支援するプログラムを交通安全教育センターで受講できる体制を整えるなど、新しい分野にもチャレンジしています。

今後もHondaは、「事故ゼロのモビリティ社会」の実現に向け、「Safety for Everyone」を安全スローガンに、「ヒト」領域である安全運転普及活動の取組みもより一層強化してまいります。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Hondaへの変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

Hondaの安全に対する考え方

Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使うだれもが安全でいられる「事故に遭わない社会」をつくりたい。Hondaは、その実現に向け、安全の知識や運転技術をたくさんの「ヒト(ソフト)」に伝えること、安全に関わる「テクノロジー(ハード)」の開発、さらには安全情報を伝えあう「コミュニケーション」を推進する活動に力を尽くしていきます。

その「ヒト(ソフト)」の領域において、子どもから高齢者まで各年代に応じた交通安全啓発活動を地域社会と一体となって進めることが必要と考え、積極的に取り組んでいます。



安全運転普及本部の活動

Hondaの安全運転普及活動は、人に焦点を当てた「人から人への手渡しの安全」と、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を基本に、活動の三本柱として、人づくり、場づくり、ソフトウェアの開発に取り組んでいます。



交通安全を伝える 指導者を養成しています。

効果的に交通安全教育を行い、活動を広げるためには、それを実践する指導者が必要不可欠です。そのため、Hondaは手渡しの安全の担い手である指導者の養成に積極的に取り組んでいます。また、活動に賛同して下さる企業・地域・自動車教習所などの方々へ、要望に応じて指導ノウハウを提供するなど、指導者養成を支援しています。

交通安全を考え、学ぶための 「場」と「機会」を提供しています。

交通ルールやマナー、安全運転について日常的に考え、学ぶための「場」と「機会」をお客様や地域の方々へ提供しています。例えば、親子で学べる交通安全教室や危険を安全に体験していただく参加体験型のスクール、受講者同士の話し合いの中から自分の交通行動を振り返る講習など、様々な学びの「場」と「機会」を創出しています。

学習効果を高めるための 「教育プログラムや教育機器」を 開発しています。

安全教育の現場でご活用いただける教育プログラムや教育機器等、「ソフトウェアの開発」も安全運転普及本部の重要な活動の一つです。本人の気づきを促す各種交通安全教育プログラムや、危険を安全に体験いただける二輪・四輪・自転車の各種シミュレーターなど教育機器の開発に力を入れています。

安全運転普及本部の活動体制

できるだけ多くの人に 安全教育に参加してほしいから、 活動の場を広げています。

安全運転普及本部では、各年代に応じたきめ細やかな安全運転普及活動が行えるよう、活動体制を整えています。それぞれの活動拠点に、役割に応じた専任のインストラクターやスタッフを配置し、皆様に交通安全教育の「場」と「機会」を提供したり、関係諸団体と連携した交通安全普及活動に取り組んでいます。

